

今年は暖冬とはいふものの、師走の風は冷たさひとしお。本年もご愛読いただきましてありがとうございました。新しい年を健やかに迎えてください。現在会員登録数 1,860 人さま。次号は 1 月 20 日発行の予定です／

☆。.:*。★。.:*。☆。.: 目次 *。☆。.:*。★。.:*。

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 64

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

☆。.:*。★。.:*。☆。.: *。★。.:*。☆。.:*。★。

【1】お知らせ ☆

● 国際講演会&ワークショップの参加者募集

講 師：エミリー・グラヴェット（イギリスの画家・絵本作家）

◇ 国際講演会

「イギリスの絵本作家 エミリー・グラヴェットー絵に生きる」

日 時：平成 28 年 2 月 27 日（土）午後 1 時～4 時

通 訳：松下宏子さん（関西大学ほか非常勤講師）

対 象：中学生以上

定 員：80 名（申込先着順）

◇ ワークショップ

「イギリスの絵本作家 エミリー・グラヴェットさんと絵本をつくろう！」

日 時：平成 28 年 2 月 28 日（日）午後 1 時～4 時

対 象：小学生 通訳あり

定 員：30 名（申込先着順）

○ 共通事項（国際講演会、ワークショップ）

会 場：大阪府立中央図書館 2 階多目的室（東大阪市荒本）

参加費：無 料

申込期間：平成 28 年 1 月 6 日（水）～2 月 19 日（金）必着

主 催：国立国会図書館 国際子ども図書館 / 大阪府立中央図書館 /
一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

協 賛：近鉄グループホールディングス株式会社/パナソニック株式会社/
サントリーホールディングス株式会社/ムサシ・アイ・テクノ株式会社
/株式会社富士通システムズアプリケーション&サポート

詳細は、大阪府立中央図書館のHP↓↓

<http://www.library.pref.osaka.jp/site/jibunkan/event2015.html>

● 「日産童話と絵本のグランプリ」受賞作品が出版されました
当財団主催「第31回 日産 童話と絵本のグランプリ」（平成26年度実施）の
大賞2作品が、BL出版より出版されました。

『タンポポの金メダル』山本早苗／作 童話部門大賞作品

青井芳美／絵（第3回絵本部門大賞受賞者）

『せかいのはての むこうがわ』たなかやすひろ／作・絵 絵本部門大賞作品
詳細、表紙写真はこちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#31shuppan

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム ☆

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Masayo's Talk

『3+6の夏 ひろしま、あの子はだあれ』中澤晶子著 ささめやゆき絵
汐文社 2015年7月 対象年齢：小学校中学年以上

あらすじ：広島にある同じ絵画教室に通う小学4年生2人組（かなた＋わさび、らいと＋れふと、わよみ＋のりあき）が、それぞれ70年前の原爆で命を落とした同じ年の子どもに出会うアンソロジー。かなたたちは、かなたのひいおばあちゃんの友だち、らいとたちは、ひいおじいちゃんの子の兄弟、わよみたちは、ロシア人のおばあさんの弟の幽霊に出会う。

Y：戦争を体験していない世代にいかん戦争や原爆を伝えるのかというのは私たちの世代にとって大きな課題ですが、この作品は、そのことを強く意識して書かれた作品だと思いました。

M：「毎日新聞大阪本社版」の連載が元になっており、連載当時は副題がありませんでした。「ひろしま」という言葉は本文中にも出てきません。そこから子どもへのメッセージの押しつけをしないという作者の姿勢がうかがえます。

Y：主人公の二人組は、自分たちと同じ年の幽霊の子どもに出会ってかけっこをして一緒に遊んだり、好きな路面電車を幽霊に見せて名前を呼んだり、写真を撮ったりして、存在を確認します。知ることから始まるという作者のメッセージが読み取れます。

M：子どもたちが不思議な出来事に一人で出会うのではなく、二人で出会うことで対話をし、理解を深めていくという手法は納得できます。子どもたちの名前はユーモラスでした。

Y：そして、子どもたちに幽霊が誰か、どうして亡くなったのかを語る大人がいます。

M：そういう意味では、3+6とも言えるし、3+3+6とも言えるかもしれませんが、私がこの作品で興味をひかれたことのひとつに、幽霊の子ども

たちの服装が必ず描写されているということがありました。1番目の子は花模様のブラウス、2番目の子は白いシャツ、3番目の子はセーラーえりの青いシャツです。

Y：視覚的にイメージが伝わってきます。広告ディレクター、コピーライターとしての作者の感覚が生きています。

M：その視覚イメージをささめやゆきの絵が子どもたちに語るようなあたたかい線で描いています。

Y：登場人物が血縁ばかりでなく、また、ロシア人も登場した点に視野の広さを感じました。

* 今回のゲストは愛知淑徳大学教授の酒井晶代（M）さんです。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第4回「よだかの星」

やがてカタルシスがやってくる

私の観察では、宮沢賢治のファンのなかには、「よだかの星」が好きな人が多いようです。それなら、「よだかの星」の魅力とは何でしょう。

〈よだかは、実にみにくい鳥です。／顔は、ところどころ、味噌をつけたようにまだらで、くちばしは、ひらたくて、耳までさけています。／足は、まるでよぼよぼで、一間とも歩けません。〉

作品の語り手は、よだかの醜さをしつこく説明し、鷹は、「まだお前は名前をかえないのか。ずいぶんお前も恥知らずだな。お前とおれとでは、よっぽど人格がちがうんだよ。」とせまります。鷹は、よだかという名は「云わば、おれと夜と、両方から貸りてあるんだ。さあ返せ。」とも、「市蔵」と改名して、その披露をしるともいいます。

一方、よだかは、自分が毎晩カブトムシや羽虫を食べ、殺していることに気がついて、大声をあげて泣きます。そして、お日さまに、つぎには星たちに「どうぞ私をあなたの所へ連れてって下さい。灼けて死んでもかまいません。」とたのみます。

このように、語り手も鷹もよだか自身も、作中で「過剰さ」を積みあげていきます。積みあがった「過剰さ」をよだかが引きうけた結果、作品にはカタルシスがやってきます。まっすぐ空へのぼっていった、よだかは、とうとう星になるのです。「よだかの星」には、「過剰さ」を積みあげていったあげくに、ある種の「浄化」がおとずれるという力学がはたらいているように思います。

「よだかが、この世のつらさから逃れる為、ひたすら遠い星の世界へ憧れる所は、「厭離穢土・欣求浄土」という仏教思想の形象化であり、自分の力をふりしぼり、命とひきかえに悲願を成就するよだかの姿は、正に、捨身成仏した仏陀の姿である。」と述べ、「よだかの星」に作者の法華経への傾倒を読もうとしたのは、西田良子でした（「まことの世界の追求」1968年）。しかし、私たちは、それより何より、「浄化」に至る作品の力学にこそ惹かれて

きたのではないのでしょうか。

そして、こうした力学は、「よだかの星」以外の作品にも見出せるように思うのですが、そのことは、あらためて、また。（馬車別当）
（本文の引用は、角川文庫版『銀河鉄道の夜』によりました。）

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 64

その9 おはなしを語る（4）語るポイント3

子どもたちは、聞いたおはなしが気に入ると、終わってすぐに、またはしばらくしてから、おはなしのフレーズを思わず口ずさんだり、日常生活の中でうまく使ったりすることがあります。おはなしの言葉が子どもの一部になったことがわかる瞬間で、立ち会えた時には幸せな気持ちになります。子どもたちがよく口にするのは、オノマトペや、繰り返しの言葉、ユーモラスな言い回しなどです。そこで、これらの言葉はできるだけ丁寧に語る必要があります。

音は、その音が聞こえるように語ります。大男が家に帰ってくる音は「どん どん どん」と書いてあっても、自分が出せる範囲の声の中で一番低い声を使って、大男の歩く速度をイメージし、だんだん近づいてくるなら、だんだん大きく響かせます。音は空気を伝わって聞こえますので、音とともに周りの空間を想像して出してみると、音に変化が生まれます。そして、同じ大男の足音でも、主人公の子どもが怖がっているようなら、その怖さを共有するような音でしょうし、逆に、だましてやろうと待ち構えているようなら、ほんの少し期待感を持った音に聞こえるでしょう。おはなしの中でその音がどのような意味があるか、聞き手にどのような音として聞いて欲しいかを考えることによって、音の出し方が自ずと決まってきます。

繰り返しの言葉は一般的におもしろいと言われていますが、一歩間違えると、単調になってしまい、聞き手が離れてしまう危険性もあります。変化をつけつつ、繰り返してであることがわかるように語る必要があります。繰り返しの部分の分量にもよりますが、例えば、1回目は初めてなので少し丁寧に、2回目はさらっと語りながら、変化のあった部分だけを丁寧に、3回目は最後ということを意識してもう一度たっぷり語るという方法や、2回目以降は、聞き手の1回目の記憶を呼び起こして一緒に確認するような気持ちで語るという方法などが考えられます。

ユーモラスな言い回しは、語り手が押し付けがましくなったり、聞き手より先に笑ってしまっただけではだいたいです。おはなしの一部として語り抜くことで、聞き手におはなし全体の中でのユーモアを感じてもらい、言い回しそのもののおもしろさに気づいてもらうことが大切です。特にユーモラスな場面は聞き手の年齢や場の雰囲気によって大きく異なることがあるので、「ここはおもしろいはず。笑うはず」などと先入観を持たずに語るのがいいと思います。

* 次号は「その9 おはなしを語る（4）語るポイント4」の予定です。

質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。（Y）

《4》 行って来ました！

大丸心齋橋店で1月4日まで開催されている、「ピクサーアドベンチャー
「もしも」から始まる、冒険の世界」に行ってきました。

ディズニー／ピクサーの映画の世界の体験型イベントということで、小学生の姪と甥と一緒に行きました。その日は休日のにぎわっており、入場するまでに30分ほどかかりました。

展示は「トイ・ストーリー」、「モンスターズ・インク」、「カーズ」、「ファインディング・ニモ」の4つの映画に分けられていて、写真撮影が自由にできます。入ってすぐは「トイ・ストーリー」です。ウッディやバズなど登場するおもちゃたちが大きく作られているので、自分もおもちゃのひとつになったように感じます。映画の場面がちりばめられた大きなスクラップブックがいくつもあって、エピソードを振り返ることができ、トリビアクイズなどもあります。

「モンスターズ・インク」は、モンスターのサリーやマイクと記念撮影できたり、会社の掃除係に扮装して、モンスターの世界に入り込んだ女の子と撮影できたりします。トカゲのようなモンスターの前に置かれた箱のひとつを持ち上げると、モンスターも箱と同じ模様が変わる不思議なしかけもありました。

「カーズ」は映画の舞台ラジエーター・スプリングスにクルマたちが勢ぞろいした大きなパネルの前で撮影できます。「ニモ」は、魚になった気分、人間のダイバーの網に捕まったり、サメに食べられそうになったり、水槽の中に閉じ込められたりするポーズで写真が撮れます。

会場内では思ったよりゆっくり写真を撮ったり、遊んだり、映画の世界を体感することができました。小さい子どもの家族連れが多かったですが、カップルや若者のグループなど、思い思いに楽しんでいました。今回は制作過程などの解説はほとんどありませんでしたので、来年、東京都現代美術館で開催される「スタジオ設立30周年記念 ピクサー展」に行きたいと思っています。(K)

■-----■

【3】全国のイベント紹介 ☆

■-----■

● 子どもと本の講座「子どもに本(物語)を届けること」

長年、人形劇団で活躍されてきた経験を語っていただきながら、子どもに物語を届けることを一緒に考えていきましょう。3回連続講座

講 師：松本則子（全国青少年演劇協議会 運営委員長）

第1回 1月8日（金）午前10時15分～12時

「人形劇屋から見た絵本のはなし」 会場：メイシアター（吹田市泉町）

第2回 2月12日（金）午前10時15分～12時

「絵本から何が聴こえますか」 会場：吹田市立中央図書館

